

国指定重要無形民俗文化財
相模人形芝居 下中座 新作

曾我物語 十郎・五郎出立の段



作……藤田和嘉子
作曲……野澤勝平
振付・演出……下中座
人形特別指導……吉田箕一郎
太夫……竹本織太夫
三味線……野澤勝平(録音による上演)

日本三大仇討の一つ、曾我兄弟の仇討を題材にしている。
小田原市曾我地区は曾我兄弟ゆかりの地であり、隣接する中村地区を拠点に伝統を紡いできた相模人形芝居下中座が曾我兄弟の大願成就から八百二十九年の今年、人形浄瑠璃に仕立てる。

あらすじ

幼い頃、父・川津祐泰を工藤祐経に闇討ちされた一萬丸・箱王丸の兄弟は、母の再婚相手の曾我祐信のもとで育てられていた。兄の一萬丸は元服して曾我十郎祐成と名乗っている。弟の箱王丸は、父の菩提を弔うため、箱根権現社に稚児として預けられていた。

舞台は曾我の外れにある山彦山。箱王丸は夜な夜な箱根を抜け出して、子天狗・朝日丸を相手に剣術の稽古に励んでいる。今夜も朝日丸相手に稽古に打ち込んでみると、兄の十郎が大勢の侍に追われてきた。侍たちは工藤祐経の手のものであり、兄弟の首を討つて褒美を得ようとしているという。朝日丸の機転で刺客を追い払った後、十郎は工藤の刺客にみすみす命を奪われるくらいなら、父の敵を討つて名誉ある死を遂げたいと決意を語る。「弟よ。ともに仇討に旅立とう」と誘う兄の言葉に、箱王丸

の心は揺れ動く。「我一人でも」と出かけようとする兄を引き止めながらも、箱王丸の旅立ちの心は決まらない。

そこへ、山彦山の主である大天狗が子天狗・夕日丸を伴って現れる。大天狗は箱王丸の本心を見抜き、「父の敵を討ちたいのであろう」と語る。

再び忍び寄る刺客たちを、子天狗たちがつむじ風に乘せて飛ばしてしまう。執拗な刺客たちの姿に覚悟を決めた箱王丸は、兄とともに旅立つことを大天狗に告げる。

大天狗は、箱王丸に「そなたは、北条時政より五郎時致の名を授けられるであろう」と予言し、子天狗たちに光の珠となつて二人を見送ることを命じ、闇に消えていった。二人の行く末を照らす光の珠に導かれ、十郎・五郎は旅立つのであった。

第六十三回 曾我の傘焼きまつり 式次第 令和4年5月21日(土) 於：宗我神社

15:00 受付開始 於：宗我神社 境内
15:30 開会式 於：宗我神社 境内
16:00 下中座「曾我物語 十郎・五郎出立の段」開演
於：宗我神社 神楽殿
19:20 松明行列(下曾我小学校児童)
於：宗我神社～梅の里センター(下曾我駅前)
20:00 傘焼き神事 於：梅の里センター駐車場(下曾我駅前)

